

## 経済学部商業学科通信教育課程

### I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

2013年度からカリキュラムを一新し、通学課程とほぼ同様なカリキュラムとした。  
第Ⅰ期中期目標は達成したと認識しており、大学評価委員会からも高い評価を頂いた。  
第Ⅱ期中期目標として定めている、各種データの収集や学生アンケート等による定量的データに基づいた検証に向けて、2014年度末にカリキュラム変更前後2年間の履修・成績分布等のデータや、2014年度から実施している学生アンケート等、定量的データの蓄積が順調進んでおり、検証手法を含めて検討していきたい。

### II 現状分析

<b>1 理念・目的</b>
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。 <u>①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。</u> 設定されている（「経営学部通信教育課程 理念・目的」参照）。
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 <u>①どのように理念・目的を周知・公表していますか。</u> 全学生に配本している『学習のしおり』に掲載されていると共に、通信教育部ホームページにおいて教育理念および教育目標のページを設け、広く周知している。
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 <u>①理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。</u> 現在のところ、定期的な検証を行っていないが、今後に向けた継続的な改革・改善に際し、理念・目的の適切性についても、通信教育学務委員を中心に検証していきたい。
<b>2 教員・教員組織</b>
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。 <u>①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。</u> 通信教育課程は、通学課程の授業を行う学部が併せ行う形で運営している。従って、担当教員は通信教育課程と通学課程の両方を担当し、求める教員像は通学課程を前提としている。よって、教員の委嘱等については、通学課程同様、教授会の審議事項である。 <u>②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。</u> 教授会は、通信教育課程の責任者として通信教育課程主任を任命し、学部長、教授会主任等の学部執行部と連携・調整を図っており、教授会においても通信教育課程の授業運営について審議・報告する役割を担っている。また、各科目には原則として教科担当者を専任教員が担い、その責任性を明確にしている。
2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 <u>①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。</u> 大学通信教育設置基準の附則3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程の専任教員は配置していないが、通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていくことで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。
<b>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b>
3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 <u>①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。</u> 通学課程同様、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を設定している。
3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 <u>①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。</u> 2007年度に「進級に関する規程」を制定し、基準となる単位数を満たさない限り進級させない等の措置を採ることで、各学年における学生に期待する学習成果の達成を定め、卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成しうる教育内容を提供している。
3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会

に公表されているか。
①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していきますか。 通信教育部ホームページ等に掲載している。また、学科概要・人材養成その他教育研究上の目的や、教員メッセージも掲載しており、経営学部通信教育課程の魅力を広く周知している。
3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 これまで把握していなかった成績分布等が2014年度末から把握できることとなったため、今後はそれを活用した検証プロセスを検討したい。
<b>4 教育課程・教育内容</b>
4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。 2013年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改め、経営学・会計学・商学領域の管区を幅広く履修できるように配慮した。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。 これにより、日本の通信教育課程において、幅広く経営学の科目を履修できる学科の1つとなっている。
4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
①学生の能力育成の観点から教育内容が適切に提供されていますか。また、なぜそのように判断しましたか。 通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの2つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間15週の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリングとその形態は多様である。また、夏期スクーリングでは、より社会人が受講しやすいよう18:30～の時間帯に授業を開講し、そのニーズに応えている。 そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やすべく、既に2015年度後期開講として1科目の撮影を終了、またその他2科目のコンテンツ化について準備を進めている。 これら多様なスクーリングは、さまざまなニーズを持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットであると確信している。
<b>5 教育方法</b>
5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。
①学生の履修指導をどのように行っていますか。 卒業生に相談することが出来るWebによる学習相談制度を実施しており、より丁寧な学習指導を行っている。また、これから学習を進める新入生や学習の進め方に悩む在学生を対象にガイダンスや学習相談会を実施しており、地方在住者等に向けてそのガイダンス内容をWebでも公開している。また、2015年度は、より学習指導のクオリティ向上に向けて、ステップ型の学習ガイダンスの展開を検討している。加えて、通信学習およびスクーリングの全科目のシラバスを作成し、通学課程同様、シラバスのWeb化も達成し、今後の教育効果の向上が期待できる。 ②学生への学習指導をどのように行っていますか。 通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。夏期・冬期スクーリングに加え、全国で実施している地方スクーリング時にも「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となるような場の提供も行っている。直近の「通教生のつどい」(冬期スクーリングにて開催)には、約100名の学生および教員が参加し、学習意欲向上の一助にもなっている。
5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。 2015年度より、通学課程同様、通信学習およびスクーリングにおいて第三者確認制度を導入し、検証を開始している。 ②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。 現在は検証を行っていないが、2015年度より通学課程同様、スクーリングにおいて学生による授業改善アンケートの実施の実施を決めたことから、その質問項目である「授業の運営が適切であった」といった回答等、定量的データの活用を検討していきたい。
5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。

<p>通信科目については、設題総覧に「設題解答にあたっての解説・注意等」、シラバスに「成績評価基準」の項目を設け、成績評価方法と単位認定の内容を示している。また、スクーリングについては、講義概要に加え「予習範囲」の項目を設け、単位認定への道筋を明記している。</p> <p>もちろん「成績評価基準」も明確に記載している。これらをもとに個々の授業科目で成績評価が行われている。</p> <p><u>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。</u></p> <p>編入学生の単位認定は、2年次・3年次および4年次編入、学士入学者ごとに認定範囲を定めており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で認定を行っている。また、在学中に放送大学で修得した単位を最大10単位まで本学のスクーリング単位として認定する制度もある。</p>
<p><b>6 成果</b></p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p><u>①学生の学習成果をどのように測定していますか。</u></p> <p>通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）で最終的な到達点を測定している。スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。</p> <p>また、メディアスクーリングでは、中間レポートも課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。</p> <p><u>②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</u></p> <p>2014年度末から、成績分布等の定量的データの把握をしている。</p> <p>進級などの状況は、年2回行っている進級卒業判定時において、教授会の審議事項である。</p>
<p>6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</p> <p><u>①卒業、卒業保留、退学状況を学部（学科）単位で把握していますか。</u></p> <p>通信教育課程は通学課程とは異なり、退学・除籍する学生が多く、卒業までに至る学生が少ないが、卒業、卒業保留、退学・除籍者については、通学課程同様、教授会で審議事項であり、正確に把握している。</p>
<p><b>7 学生の受け入れ</b></p>
<p>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p><u>①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。</u></p> <p>通学課程同様、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を制定している。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p><u>①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。</u></p> <p>定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。従って、今後の文部科学省担当部署である学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集に力を入れ、時期を見て慎重に検討したい。</p>
<p>7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p><u>①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。</u></p> <p>学生募集および入学者選抜結果については、毎年度「通信教育学務委員会」で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データがとともに適宜報告される。データを踏まえ、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」が現状と課題を教授会にフィードバックしている。</p>
<p><b>8 管理運営</b></p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p><u>①通信教育課程主任をはじめとする所要の職を置き、また通信教育学務委員会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。</u></p> <p>通信教育学務委員会規程に定められた内容に則り、月1回を目安に定期的に通信教育学務委員会を開催し、入学選考から卒業に至るまでの各種学事事項が審議されている。</p>
<p><b>9 内部質保証</b></p>
<p>9.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。</p> <p><u>①質保証に関する各種委員会は適切に活動していますか。</u></p> <p>通信教育課程に共通する学事事項を審議するため「通信教育学務委員会」が置かれ、委員は通信教育課程を設置する学部からの選出者および通信教育課程の教養教育各科目群責任者から構成されている。</p> <p><u>②質保証活動への教員の参加状況を説明してください。</u></p> <p>経営学部教授会では、「経営学部・通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」を指名し、これらの委員が通信教育課程の現状と課題を把握し、それらを教授会にフィードバックさせるシステムが整備されている。これにより教授会構</p>

成員全員が参加する状況を作ることが可能となっている。また、通信教育学務委員のうち1名が、委員としてFDアドバイザリーボードへ出席しており、全学的な連携も図っている。

2015年度からは、通学課程同様、シラバスの第三者確認を実施し、質保証に向けて積極体に活動している。

#### 学生支援【任意項目】

学生への生活支援は適切に行われているか。

・学部(学科)として学生の生活相談に組織的に対応していますか。

通信教育課程の事務局である通信教育部事務部では学生担当を置き、学生の生活相談も含め学生対応に力を入れている。

・学部(学科)として各種ハラスメント(アカデミックハラスメント、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等)の防止の取り組みを行なっていますか。

スクーリング開催時における学生周知文書等において、各種ハラスメントに対する防止について書面で案内を行っている。また、必要に応じて、学内に設置されているハラスメント相談室の活用もしている。

#### 教育研究等環境【任意項目】

教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

・ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制は整備されていますか。

情報実習など、一部科目において、通学課程同様、ティーチング・アシスタント(T・A)を採用し、教育研究支援の一助となっている。

研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

・研究倫理に関する学内規程に基づき、規程の周知、研修会の開催等、研究倫理を浸透させるための取り組みを行っていますか。

毎年、学則等の規程の見直し等について、通信教育学務委員会および教授会で審議している。

#### 社会連携・社会貢献【任意項目】

教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

・学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組みを行っていますか。

経営学部通信教育課程では、2013年度より会計系の専門学校として有名である学校法人大原学園と業務提携をし、併修制度を運用している。2014年度においては、初めての卒業生を輩出し、ますますの教育研修の推進が期待できる。

・その他部局で取り組んでいる重点事項があれば記載してください。

卒業生との連携の強化を図っており、通信教育部ホームページにおいて卒業生による体験談の充実を進めている。これにより、本学の教育研究の魅力についてより広い周知が期待できる。

#### 現状分析根拠資料一覧

資料番号	資料名
1	理念・目的
	理念・目的等(経営学部通信教育課程) <a href="http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/tsukyo.html">http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/tsukyo.html</a>
2	教員・教員組織
	教員一覧(2014年度)_通信教育部ホームページより抜粋 <a href="http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/fuculty/teacher/business/">http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/fuculty/teacher/business/</a>
3	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
	<a href="http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo.html">http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo.html</a>
4	教育課程・教育内容
	商業学科教育課程_『学習のしおり』より抜粋
5	教育方法
	2015年度スクーリングシラバス一覧_法政大学Webシラバスより抜粋
6	成果
	経営学部通信教育課程における各種データについて_2014年度第9回学務委員会資料
7	学生の受け入れ
	<a href="http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/tsukyo.html">http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/tsukyo.html</a>
8	管理運営
	通信教育学務委員会規程

学生支援	
	2015 年度 GW スクーリング学生周知文書（受講要領）
社会連携・社会貢献	
	卒業生体験談_通信教育部ホームページより抜粋 http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/student_voice/

### III. 学部(学科)の重点目標

<p>経営学部通信教育課程の主たる学生層である30～40歳代の社会人からも強く求められているメディア授業の一層の拡充を行い、高い教育水準を提供しつつ、学生からのニーズに答えたい。</p> <p>また、ステップ型学習ガイダンスの導入等、学習フォロー体制の充実を目指す。</p>
---

### IV 2014 年度目標達成状況

No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
1	中期目標	単位修得方法の厳正化の深化	
	年度目標	2014 年度から新たに通信科目と同様に作成したスクーリング科目のシラバスの成績評価基準について、評価基準が適切に運用されているかを検証する。	
	達成指標	通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、各科目担当者に検証を促す。	
	年度末報告	自己評価	A
		理由	通信学習のシラバス作成においては、評価項目として重視する点を明記すること、評価要素に単位修得試験の得点だけでなくレポートの内容を含めるかどうか明記することを事務局から依頼している。また、スクーリングのシラバス作成においては、通学課程同様のガイドラインで運用しており、これらを通して各担当者に評価基準が適切に運用されているか検証を促している。
	改善策	2015 年度より導入された「シラバスの第三者確認」も活用し、評価基準が適切に運用できるよう一層の環境整備を目指す。	
No	評価基準	教育課程・教育内容	
2	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実	
	年度目標	2013 年 4 月から導入した新カリキュラムの効果を検証し、より一層の充実を目指す。	
	達成指標	通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、各種データの収集や学生アンケート結果等に基づいて、教授会で検証する。	
	年度末報告	自己評価	A
		理由	通信教育学務委員会では、カリキュラムや各種制度の変更の検証について各種データの収集や学生アンケート等、できるところから進めることを確認している。これに伴い、満足度や学習行動等を把握するための学生アンケートを 2014 年度から実施し、今継続する予定である。また、2014 年度末の通信教育学務委員会において、経年（カリキュラム変更前後）における成績分布や単位修得試験受験数・レポート提出数等の定量的データも提示され、引き続き検証に向けて議論を進めていく。
	改善策	今後も継続して各種データの収集・蓄積を行い、検証手法についても議論を進めたい。	
No	評価基準	教育方法	
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実	
	年度目標	前年度に引き続き、メディア授業の拡大（開講科目の増設）を目指す。 また、2013 年度から開催会場を変更した地方スクーリングをはじめ、各種スクーリングの開講科目について見直す。	
	達成指標	メディア授業の科目数を増やす。 また、メディア授業とその他スクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置する。	
	年度末報告	自己評価	A
理由		メディア授業については、2014 年度は 18 科目を開講した（2013 年度は 15 科目）。メディア授業の受講者数も多いことから、学生のニーズに合致していることが確認できた。引き続き 2015	

			年度についてもメディア授業の拡充を目指し、すでにその準備（撮影等）に入っている。 夏期スクーリングの夜間開講の開始時間について、2014年度から18時30分（2013年度は17時）に変更し、特に社会人学生が仕事終了後に来校しやすい時間帯に開講した。 各種スクーリングの開講科目については、2015年度のスクーリング開講科目を決めるにあたり、各スクーリングに適切な科目を配置した。
		改善策	2015年度に予定されているメディア授業のコンテンツ作成を、計画どおり進めたい。
No	評価基準		成果
4	中期目標		継続的な学習推進
	年度目標		これまでの各種学習相談体制を検証するとともに、Webを活用したサポート体制をより充実させ、継続的な学習を促す。
	達成指標		在学生を対象としたアンケートを実施し、学生が求めるサポートのニーズを把握し、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、教授会で検証する。 学習ガイダンス等のWebコンテンツを充実させる。
	年度末報告	自己評価	A
		理由	学生アンケートについては、通信教育部の全学部の在学生を対象に、2014年度から実施しており、今後も継続する予定である。 学習ガイダンスについては、通信教育部全体で延べ8日程を開催した（2013年度に比べ2日程増加）。そのうち、経済学部は3日程で教員が講演を行い、1日程については商業学科卒業生による個別相談を実施した。また、11月に実施したガイダンスの講演内容を撮影し、当日参加できなかった学生が視聴できるように、通信教育部生向けのWebサービス（Web学習サービス）で配信している。その内容は、大学生としての心構えからはじまり、学習を進める中でよく出る質問・疑問である、通信教育学習における留意点・自宅学習の進め方・レポートの書き方等を紹介した。またレポートの添削や試験採点を通じた教員視点からの感想も紹介しており、大変好評であった。
	改善策	引き続き、学生アンケートを実施し、ニーズの把握に努めたい。 学習ガイダンスについては、開催形式等の検討をし、より一層の受講効果向上を目指す。	

#### V 2015年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
1	中期目標	単位修得方法の厳正化の深化
	年度目標	2015年度から新たに導入されたシラバス第三者確認が適切に実施され、そのシラバスの成績評価基準について、適切に運用されているか検証する。
	達成指標	学生アンケートによる定量的データの活用を踏まえ、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、各科目担当者に検証を促す。
No	評価基準	教育課程・教育内容
2	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実
	年度目標	成績分布等のデータを活用し、カリキュラム科目のより一層の充実を目指す。
	達成指標	蓄積していく各種データの収集や学生アンケート結果等にもとづき、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、教授会で検証し、より一層の効果を目指す。
No	評価基準	教育方法
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実
	年度目標	引き続き、高いニーズがあるメディア授業の拡大を目指す。
	達成指標	メディア授業の科目数を増やす。 また、メディア授業とその他スクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置する。
No	評価基準	成果
4	中期目標	継続的な学習推進
	年度目標	これまでの各種学習相談体制を見直すとともに、より学生視点のサポート体制を目指す。
	達成指標	継続して在学生を対象としたアンケートを実施し、学生が求めるサポートのニーズを把握し、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、教授会で検証する。

	複雑な通信教育の仕組みを分かりやすく紹介する学習ガイダンス内容等を充実させる。
--	---

**VI 2012 年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書**

該当なし

**VII 大学評価報告書**

<b>大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見</b>	
<p>経済学部商業学科通信教育課程においては、2013 年度からカリキュラムを一新し、通学課程とほぼ同様なカリキュラムとした第 I 期中期目標を達成し、2014 年度の大学評価委員会はそれを高く評価している。</p> <p>各種データの収集や学生アンケート等による定量的データに基づいた検証を行うことが、第 II 期中期目標として定められている。2015 年度は新カリキュラム導入から 3 年目となるので、蓄積された各種データに基づきどのように検証を進めていくかを検討し、新カリキュラムが完成する 2016 年度にかけて検証が実施され、更なる改善、充実が図られることを期待したい。</p>	
<b>現状分析に対する所見</b>	
<b>1 理念・目的</b>	
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。	<p>経済学部商業学科通信教育課程では、「全国の勤労学生に高等教育を施すべしとの時代の要請を受け、広く門戸を開放して学ぶ場を提供」すること、「生涯学習の担い手としての新たな役割などの期待に答えること」を理念・目的として設定している。また、教育目標として「広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材の育成」が掲げている。</p>
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	<p>経済学部商業学科通信教育課程の理念・目的は、通信教育部の学生には『学習のしおり』を通じて、また社会には大学ならびに通信教育部のHPを通じて適切に周知されている。</p>
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	<p>理念・目的の適切性は通教全体にかかわる問題で、2010年度から検討されている。</p>
<b>2 教員・教員組織</b>	
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	<p>経済学部商業学科通信教育課程については、経営学部教授会での検討と審議を経て、商業学科は 2013 年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、経営学部の通学課程のカリキュラムと同等としており、教員像、教員組織の編制方針についても通学課程と同様としている。</p> <p>経営学部教授会で任命された通信教育課程主任が経営学部執行部と連携・調整し、教授会において商業学科の授業運営について審議・報告する責任者となっており、責任の所在は明確にされている。</p>
2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	<p>経済学部商業学科通信教育課程では、2013 年度の大幅なカリキュラム改革により、商業学科のカリキュラムは経営学部の通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改められた。経営学部の専任教員が商業学科の授業を担当しており、教育課程にふさわしい教員組織が備えられている。</p>
<b>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</b>	
3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	<p>経済学部商業学科通信教育課程では、「人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端を行く専門分野の学識を取得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を修得する」という方針のもと、「経営学、会計学、商学及び経済学の専門分野を網羅した専門科目について、スクーリングなどを通して履修し、所定の科目を含め124単位を修得した者」を卒業要件としており、明確な学位授与方針が定められている。</p>
3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	<p>経済学部商業学科通信教育課程では、2007年度に「進級に関する規程」が制定され、2013年度には「経営学部の通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改める」との方針のもとに、大幅なカリキュラム改革が行われた。これらを通じて、学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針は設定されていると判断される。</p>
3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。	<p>経済学部商業学科通信教育課程の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、大学および通信教育部のHPで適切に周知されている。</p>

3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
経済学部商業学科通信教育課程において、成績分布等、これまで入手できなかったデータを活用した検証プロセスを早急に策定、実施することが望まれる。
<b>4 教育課程・教育内容</b>
4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
経済学部商業学科通信教育課程では、2013年度から、商業学科のカリキュラムを通学課程と同様に経営学・会計学・商学領域の科目を幅広く履修できるよう改革し、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置したことにより、日本の通信教育課程において、幅広く経営学の科目を履修できる学科の1つとなっていることは、高く評価できる。
4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
経済学部商業学科通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの2つの形態で授業を実施している。スクーリングにおいては、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間15週の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリングならびに全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)に加え、インターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリングを開講している。夏期スクーリングでは、社会人が受講しやすいよう18:30開始の授業を開講しており、履修生の幅広いバックグラウンドに伴う多様なニーズに応えている。 また前年度に引き続き、メディアスクーリングの開講科目を増やすべく、既に2015年度後期開講予定の1科目の撮影を終了、その他2科目のコンテンツ化について準備を進めていることも高く評価される。
<b>5 教育方法</b>
5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。
経済学部商業学科通信教育課程では、これから学習を進める新入生や学習の進め方に悩む在学生を対象としたガイダンスや学習相談会を実施し、そのガイダンス内容をWebで公開することにより地方在住者の便宜も図っている。さらに卒業生に相談することが出来るWebによる学習相談制度を実施し、通信学習およびスクーリングの全科目のシラバスのWeb化も達成するなど、丁寧な学習指導を行っていることは高く評価できる。 2015年度には、より学習指導のクオリティ向上に向けて、3回にわたるステップ型の学習ガイダンス(事務ガイダンス、卒業生ガイダンス、教員ガイダンス)の展開を検討するとしているが、その成果が期待される。 生じた疑問点を直接教員に質問することが可能な「学習質疑」制度が導入されていることに加え、夏期・冬期・地方スクーリング時に「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となるような場の提供を行っている。直近の「通教生のつどい」(冬期スクーリングにて開催)には、約100名の学生および教員が参加するなど、適切に学習指導が実施されている。
5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
経済学部商業学科通信教育課程では、2015年度より通信学習およびスクーリングにおいて、通教主任によるシラバスの第三者確認制度を導入し、適切な検証が開始されている。 授業がシラバスに沿って行われているかについては、2015年度から導入されるスクーリングにおける学生による授業改善アンケートの回答結果を活用した検証を行うことが望まれる。
5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
経済学部商業学科通信教育課程の通信科目については、設題総覧に「設題解答にあたっての解説・注意等」、シラバスに「成績評価基準」が設けられ、成績評価方法と単位認定の内容を適切に示している。スクーリングについては、講義概要に加え「予習範囲」の項目を設け、単位認定への道筋が明記されている。「成績評価基準」も明確に記載されており、成績評価と単位認定は適切に実施されている。 編入学生の単位認定は、2年次・3年次および4年次編入、学士入学者という枠ごとに認定範囲が定められており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で適切に認定が行われている。在学中に放送大学で修得した単位は、最大10単位まで本学のスクーリング単位として認定されるなど、適切な基準のもとに他大学等における既修得単位の認定が行われている。
<b>6 成果</b>
6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
経済学部商業学科通信教育課程の通信科目では、レポート添削に加え単位修得試験(筆記試験)で最終的な到達点が測定される。スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験(筆記試験)で学習成果を測っている。メディアスクーリングでは中間レポートも課している科目が多くあり、学生の学習成果は適切に測定されている。 2014年度末から、成績分布等の定量的データが把握されるようになった。進級などの状況は、年2回行っている進級卒

業判定時において経営学部教授会に報告され審議・決定されている。
6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。 経済学部商業学科通信教育課程では、通学課程に比べ退学・除籍する学生が多数出るが、卒業、卒業保留、退学、除籍状況は経営学部教授会で報告・審議されており、正確に把握されている。
<b>7 学生の受け入れ</b>
7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。 経済学部商業学科通信教育課程では、「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放し、「学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲を持った人材を受け入れる」という学生の受け入れ方針が適切に設定されている。
7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 経済学部商業学科通信教育課程においては、通信教育課程の経済学部全体の募集人数は3,000名、学生定員はその4倍の12,000人であるが、2014年7月1日時点で商業学科の在籍者数は1,468名（経済学科は749名）と大幅な未充足の状態にある。定員充足のあり方については通信教育課程全体にかかわる大きな課題であり、慎重な検討が必要である。
7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。 経済学部商業学科通信教育課程の学生募集および入学者選抜結果については、年度ごとに「通信教育学務委員会」で志願者数、合格者数、入学者数等のデータが報告され、通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員が現状と課題を経営学部教授会に報告しており、適切に検証されている。
<b>8 管理運営</b>
8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。 経済学部商業学科通信教育課程では、「法政大学通信教育部学則」で通信教育課程主任および通信教育学務委員を置くことが定められ、「通信教育学務委員会規程」が整備され、この規程に則った管理・運営が行われている。
<b>9 内部質保証</b>
9.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。 経済学部商業学科通信教育課程では、2015年度からシラバスの第三者確認を実施することになっている点は評価できるが、通学課程の質保証委員会は通教課程の質保証に対し関与していない。経営学部が担当している商業学科は経済学部の下に置かれているため、経済学部と協力して通教課程の質保証活動を検討していく必要があるだろう。 経営学部教授会では、「通教通信教育課程主任」および「通教通信教育学務委員」を指名し、これらの委員が通信教育課程の現状と課題を把握し、それらを教授会にフィードバックさせるシステムが整備されている。また、通信教育学務委員のうち1名が、委員としてFDアドバイザーボードへ出席しており、全学的な連携も図られている。
<b>学生支援【任意項目】</b>
学生への生活支援は適切に行われているか。 スクーリング開催時における学生周知文書等において、各種ハラスメントに対する防止について書面で案内を行い、必要に応じてハラスメント相談室の活用も案内している点は評価できる。
<b>教育研究等環境【任意項目】</b>
教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 情報実習など一部科目において、ティーチング・アシスタント（T・A）を採用している。 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。 学則や規程の見直し等について、通信教育学務委員会および経営学部教授会で毎年審議されている。
<b>社会連携・社会貢献【任意項目】</b>
教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。 2013年度より、会計系の専門学校である学校法人大原学園と業務提携を実施し、併修制度を運用している。 卒業生との連携の強化を図っており、通信教育部ホームページにおいて卒業生による体験談の充実を進めているなど、卒業生との連携の強化を図っている点は評価できる。
<b>その他法令等の遵守状況</b>
特になし
<b>2014年度目標の達成状況に関する所見</b>
経済学部商業学科通信教育課程の2014年度目標は、4項目とも達成指標どおり達成されている。メディア授業をさらに拡充し、夏季スクーリングの夏期スクーリングの夜間開講の開始時間を17時から18時30分に変更するなど、学生のニーズ

<p>に応えるべく積極的に改革を進めている点は高く評価できる。</p>
<p><b>2015 年度中期・年度目標に関する所見</b></p> <p>経済学部商業科通信教育課程の中期目標・年度標ともに現状を踏まえており概ね妥当である。2014 年度末から把握できるようになった成績分布などのデータや、2015 年度から導入されるスクーリングにおける学生による授業改善アンケートなどのデータに基づき、地道な改革と質保証の取り組みがなされることを期待したい</p>
<p><b>総評</b></p> <p>経済学部商業学科通信教育課程では、2013 年度からカリキュラムの大幅な改革を行い、経営学部の通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改め、経営学・会計学・商学領域の科目を幅広く履修できるように配慮した点は高く評価できる。新カリキュラムの実施から3年が経過した2015 年度から完成年度の2016 年度にかけて、カリキュラム変更の効果について客観的なデータに基づいて検証し、更なる改善に結び付けることが期待される。</p>